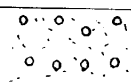



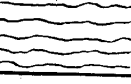


本吉地区模式柱状図

地質時代	地 層 名	柱 状 図	厚さ m	地 質	備 考
第 四 紀	表 土 河 川 堆 積 層		3~10	砂 礫 (粘土多く含む)	帯 水 層
	低 湿 地 堆 積 層		4~5	細 砂 (シルト・貝がらまじり)	同 上
			< 5	シルト質ローム (下部に有機物まじり)	軟 弱 層
	扇 状 地 堆 積 層		10~15	砂 礫	帯 水 層
中 生 代	三 疊 紀 (稲井層群)			粘 板 岩	

気仙沼地区においては、沖積層の三角洲堆積層である砂層及び洪積層の扇状地堆積層である砂礫層が、本吉地区においては、沖積層の河川堆積層である砂礫層及び洪積層の扇状地堆積層である砂礫層がそれぞれ帯水層となっている。

軟弱層の分布状況は、気仙沼地区では、沖積層で二層が認められ、上部は低湿地堆積層の砂質シルト層、下部は浅海性堆積層のシルト層であり、本吉地区では一層で、低湿地堆積層のシルト質ローム層である。

2) 北上川水系臨海地下水盆(石巻・矢本地域)

本地下水盆の範囲は、北は須江丘陵、西は松島丘陵、東は万石浦までの間とする。

特徴としては、平野部は明瞭な構造盆地を形成しているものではなく、中〜古生層からなる北上山地に対して第三紀層の丘陵が選択的に浸食を受け、北上川に沿う深い谷が形成された後堆積層がこれを埋積していること、石巻湾の海岸には砂丘が形成され、須江丘陵までの間に三列の浜堤群が残されており、これらの浜堤の堤間部は標高2メートル内外の低地帯となっていることである。

地下水盆の基盤岩は、北上山地側では中〜古生層であり、その他の大部分は第三紀層で、鮮新統の泥岩、砂質凝灰岩などである。

着岩深度は、万石浦側で60メートル、北上川河口部で30メートル、釜入江で80メートルと推定され、釜入江付近の谷は、蛇田方面から北上川と新迫川の合流点まで連続している。

帯水層としては、沖積層では上部の河川堆積層の砂層(層厚10メートル前後)と下部の浅